「節目を尊ぶ、人生は旅」

松榮山報

平成三十一年
春季例大祭斎行

Shoueizanpou 2019 May
平成三十一年 春季例大祭号
通巻 55

これからの祭典行事案内

令和御大典記念 拝殿吊り灯篭 奉賛のお願い

現在の吊り灯篭十四基は設置から長い年月を経て劣化が著しくなっております。そこで令和の御大典を寿ぎこの吊り灯篭を新調、掛け替えをするはこびとなりました。

日本の伝統技術によって作製される灯篭は御霊の鎮座する社殿を神々しく照らし、お鎮まりの大神様の御霊慰撫はもとより、参拝の方々を包む優しい御灯になる大変意義のある灯篭です。

灯篭にはご奉賛の方のお名前を刻み、感謝とともに末永くご芳名をとどめるようにいたします。

私たち国民にとりまして生涯に稀なる体験である御代がわりという大きな慶事を護國神社の大神様とともにお祝いくだされば誠にありがたく存じます。

尚、詳細は神社社務所にお問い合わせくださいますよう重ねてお願いいたします。

電話〇九七ー五五八ー三〇九六

夏越大祓式ご案内

私たちが暮らす麗しい国日本。初夏を告げる雨は大地や山河、植物たち、そして人々に恵みの雨をもたらせる梅雨としてさまざまな命のエネルギーとなります。四月の百花繚乱の花の季を過ぎ五月の若葉から新緑、そして六月の深緑へと移りゆく木々の命の輝きを、私たちの命や人生そのものに例えるかのようにことさら美しくそして新鮮な季節の数か月です。梅雨の時季は稲作を主とする日本にとって重要な雨の季節でもあり、また毎日の暮らしと大きな自然との共生、そして再生を古くから重んじる日本人にとって、降る雨ひとしずくにも命の尊さに感謝をして生きています。

命の営みや自然の深い移ろいをもっとも感じる六月三十日、宮中をはじめ全国の神社では天下万民の罪穢を祓う夏越大祓式が粛々と執り行われます。

神社の境内に設えられた目にも鮮やかな瑞々しい茅の輪の緑が映えるこの儀式。当護國神社におきましても一般参加の方々ご参加のもと、知らず知らずの間に身についてしまった年明けから半年間の罪や穢れを祓い清めて新たな半年間のスタートを祈ります。

他国に比類なき美しい四季を持つ日本。海や山、そして身近にいます八百万の神様をはじめ一木一草一石にまで敬意を払う精神。

いにしえから日々の明け暮れにおいて常に神様とともにある日本人。護國の杜の奥深くにお鎮まりの神様へご自身の平安を祈る古式ゆかしい儀式にお誘いあわせの上ご参加ください。

日　時／平成三十年六月三十日(日)　午後三時より
今年前半の心のよごれを祓います
場　所／大分縣護國神社境内
茅の輪くぐりのあと本殿にてご参拝
初穂料／一世帯　三千円
◎事前、当日とも社務所にて受け付けております
◎ご参加のみの方は無料です

令和元年 みたままつり献灯のお願い

大切な英霊をお祀りする大分縣護國神社の夏の風物詩であるみたままつり。お身内をお祀りし日々祈りを捧げている護國神社ならではの大変意義の深いお祭りとして、終戦より昭和平成を経て新たな御代令和へと歴史を重ねています。

国のため、愛する家族のために尊い命を捧げて国の内外において散華された数多の英霊たち。その御霊をお慰めする幾千もの御灯は、お盆に懐かしいふるさと大分へとお帰りいただく道しるべのいざないの灯りとして、そして終戦から幾年を重ねようとも我が国が平和であり続けることへの感謝の思いを込めた優しい灯りとして、毎年ご遺族崇敬者はもとより、各団体や企業よりお心のこもった献灯をいただいております。

終戦から七十四年を数え、さらに平成の御代をつつがなく終え、あらたな時代の元年となる意義深い今年。誠に感慨深い日本の夏、お盆を迎えるにあたり、さらに幾重にも変わることのない揺るぎない平和を願う私たちでなければなりません。尊い命をこの国の礎に変えてくださった英霊への感謝と慰霊。さらには恒久平和の願いと誓いのお気持ちとしてぜひみたままつり献灯にご賛同いただきますようお願い致します。

■小型提灯（47センチ）
初穂料／一灯　三千円
■大型提灯（68センチ）
初穂料／一灯　一万円

ーお申し込みー
大分縣護國神社
〒870-0925
大分市牧一三七一
電　話／〇九七-五五八-三〇九六(代)
FAX／〇九七-五五八-三〇九八
振　替／01950-4-18874
◎振替用紙は神社社務所でもご用意しております
お申し込み締め切り／七月三十一日(水)

これからの祭典行事案内

五月
- 月次祭　一日
- 明治大分水路水神祭並びに物故者慰霊祭　十四日
- 骨董市　十八日・十九日

六月
- 月次祭　一日
- 神梅収穫祭　上旬
- 御田植祭　中旬
- 夏越大祓式　三十日

七月
- 月次祭　一日
- 第六十九回 大分市朝顔展　二十六日～三十日

八月
- 月次祭　一日
- みたままつり　十三日・十四日・十五日
- みたままつり平和祭　十五日

人事往来

阿部　冴　三月三十一日付大分縣護國神仕女の職を解く
尾畠奈海　四月一日付大分縣護國神社仕女見習いを命ず

発行／令和元年５月１日
発行者／大分縣護國神社　発行責任者／八坂秀史
大分市大字牧1371　電話番号097-558-3096(代)
http://www.oita-gokoku.jp/

令和御大典のお祝い並びに平成三十一年春季例大祭斎了のご挨拶

大分縣護國神社宮司　八坂秀史

松栄山の桜は今年も麗しく咲き誇りました。御霊たちも安らけく愛でてくださったことでしょう。

春季例大祭は献幣使として大分県神社庁副庁長八坂神社白杵護國神社宮司橋本敬様ご参向の下、各界からのご来賓、県下各地からのご遺族崇敬者、ご協賛ご奉斎をいただきました商工企業と自治会の方々のご参列を賜り、大祭の運営には大分県遺族会連合会の役員職員ご関係者、地元五校区の自治会長、地域の皆様方のご奉仕に加え詩吟、居合のご奉納のお蔭をもちまして厳粛に盛儀裡に斎行できましたことを厚く御礼申し上げます。

平成の御代、上皇陛下は戦没された御霊とご遺族の身の上に常に御心を砕いてこられました。昭和五十六年には日本人として忘れてはならない「四つの日」を御示しになられました。広島・長崎の原爆の日、終戦の日、そして沖縄戦終結の日です。沖縄には「思わざる病となりぬ沖縄に　訪ねて果たさんつとめありしを」と詠まれた昭和天皇の大御心を拝されただけではなく、上皇陛下御自身の強い御心がおありだと思われます。それは上皇陛下が皇太子殿下の御時、皇族として戦後沖縄を初めて訪れられてより、彼の地に赴かれ続けたことからも推し量られます。

また、地方へ赴かれる際にはご当地の護國神社に幣帛料をお供えなされます。当神社には昭和五十二年九月十六日皇太子殿下同妃殿下の御時ご参拝を賜りました。当時の社務日誌には「よくおまもりください」との御言葉あり、と板井元宮司が記録しています。終戦からのそれぞれの周年の際にも、終戦五十年の年には硫黄島へ、同六十年にはサイパン島、七十年にはパラオのペリリュウ島とフィリピンに上皇后陛下とともに慰霊の旅に赴かれ「忘れられないこと」と仰いました。彼の地此の地の御霊もさぞかしご感応召されたことと拝察いたします。戦没者とそのご遺族に常に御心を寄せ、そして砕いてくださった上皇陛下上皇后陛下の思し召しに心から感謝申し上げたく存じます。

時代が移りご即位された今上陛下もその大御心を必ずや引き継いでくださると信じます。御位におつき遊ばされた天皇皇后両陛下の弥栄を心よりお祈りし、僭越ながら令和の御大典を衷心よりお祝い申し上げる次第です。

御代替りをお祝い申し上げます

大分県遺族会連合会会長　岩男立夫

新しい御代を迎え、ご遺族皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

五月一日より、元号が「令和」となり、「平成」の時代の幕が閉じました。万葉集より典拠されたとされる「令和」に込められた願いや選定理由は新聞、ニュースなどで詳しく報道されております。皆様にはよくご存じのことと思いますので、ここで改めて説明は控えさせていただきます。

さて、日本国において、とりわけ私たち遺族にとっての「昭和」は、まさに命を思い、平和を思い、そして繁栄をもたらした激動の時代でありました。先の大戦では二百三十万人もの将来ある若者が国内外の戦地で散華され、広島、長崎への原爆投下、そして終戦を迎えました。戦後、絶望と廃墟の中から、日本人のたゆまざる努力により、日本はめざましい復興と繁栄を遂げ、その平和の礎は現在に至っております。

続く「平成」の世は、大きな自然災害が多発した時代でありましたが、一方で多くの努力の上に、戦争のない平和な三十年間でありました。「令和」の時代も変わることなく穏やかな御代であり続けてほしいと切に願うばかりであります。

しかし、終戦から七十四年の歳月が流れた今、世代の交代などによりあの大戦の惨禍が忘れ去られようとしています。時代がかわっても、戦争の記憶を風化させることなく、次代へと継承していくのが、今を生きる私たちの大きな使命でもあります。

上皇上皇后両陛下におかれましては、平成の御時、原爆被災地の広島、長崎へのご訪問、そして海外での「慰霊の旅」では、激戦地サイパン、パラオ共和国、フィリピン共和国を慰霊ご訪問され、常に戦没者とその遺族に心を寄せ続けてくださいました。一国民として、そして遺族会連合会にかかわる者として衷心より感謝を申し上げたいと思います。

昭和に体験したさまざまな出来事（歴史）を決して忘れ去ることなく、英霊への追悼の気持ちと「平和への願い」が永遠に引き継がれていかれることを切に願い、新天皇陛下御即位によってはじまったばかりの「令和」の日本が平和で穏やかな時代となることを祈念し、御代がわりに際してのご挨拶と致します。

「令和」は、人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ時代です。例大祭に集う皆様方の祈りが結集し、御霊たちが國まもる神々としていよいよ高い御位に昇られることを共に祈念申し上げたく存じます。

新しい時代を迎えても皇室を尊び御霊を偲ぶ日本人の美しい心は不変です。私たちがこの心の下より良き国造りに励むことは御霊のご遺志に叶い、安らかにお鎮まりいただくことにつながります。

御霊安鎮を念じつつ平成最後の例大祭の祭了にあたってのご挨拶と、ご即位御大典のお祝いの言葉といたします。

御代替りのご慶事にあたり

大分縣護國神社
奉斎会会長　荒金一義

御皇室のご繁栄ご安泰とあわせて、崇敬者皆様の益々のご清栄を心よりお慶び申し上げます。

平成二十四年より護國神社の役員としてご奉仕させて頂きまして以来、季節も巡りめぐって早いものであっという間に七年間が過ぎようとしています。浅学非才な私ですが、しかしながらこの七年間、如何ほど神社やご遺族崇敬者の皆様のお役に立てたものかと自問自答しています。おかげさまをもちまして人間形成や多岐にわたるさまざまな発見や勉強をさせて頂き、折々に実践道徳を学ばせていただけているとありがたく感謝しています。

さて、このたびは約二百年ぶりになる御譲位にともなう御代がわりのご慶事。去る四月三十日に御退位、五月一日には新天皇陛下の御即位式が執り行われました。古来からの重儀の変遷を踏襲しつつ、時代時代に即した変化を加えながら、そして未来を見据えたような誠に感動的な儀式の数々。日本ならではの美しい儀式を目の当たりにして新たなる感動を覚えているところです。厳粛のうちに大きな節目の儀式がつつがなく終わりましたこと国民の一人として誠に喜ばしく、そして上皇上皇后両陛下ならびに新天皇皇后両陛下のますますの弥栄をお祈りしてやみません。

私たちの国日本は、天照大御神にはじまりここまで栄枯盛衰を繰り返して時流を経てきました。また、私たち人間社会も神々より自然の恵みや営みなど、さまざまな恩恵を授かり、自然界の中の一部として存続してきました。この度の御代がわりの儀式においても、神と食（米）の深い繋がりが示されました。ところが近年、食にまつわる関係の伝統文化が失われつつあるように思われ、誠に寂しいかぎりです。

新たな元号が「令和」にと変わりました。

日本民族は神代の頃より無限の活力を秘めています。

これからも感謝の気持ちと寛容の心を持って新時代を歩みましょう。そしてここで蒔いた種がどんな時でも美しく咲く花となって社会を輝かせ、国民の皆さんの希望の花となるよう切に願っております。

結びとなりますが、氏子崇敬者の皆様にとりまして心安らかに素晴らしく、そして喜びの多い御代、令和でありますよう衷心よりご祈念申し上げます。

春季例大祭 厳粛に斎行

新たな時代令和の幕開け間近の四月九日、平成最後の春季例大祭が執り行われました。

平成のこの三十年間は不幸にして大きな天災に見舞われた時代でもありましたが、戦争のない誠に穏やかな御代でもありました。これは近代の日本において稀有なことであったと言えます。ひとえに天皇皇后両陛下の国民に対するお気持ち「寄り添い」と、戦争で亡くなった多くの御霊たちへの畏くも大御心の慰霊を賜り続けたゆえであります。この三十年間は全国津々浦々をはじめ、南洋に浮かぶ島々など海外にまで行幸啓され戦没者の御霊安らけくと慰霊してくださいました。志を半ばにして戦禍に散っていった人々の無念をお思いくださった宸襟は、まさしく御遺族と同じ時代を歩まれた両陛下なればこそのありがたいお気持ちの表れでありました。この三十年間が戦なき世であったのは両陛下の平和への願いと、つねに祈りを続けられた尊いお姿が日本の神様に届いたからではないでしょうか。

明治大正昭和、そして平成の御代まで長きにわたり大分県ゆかりの御霊たち四万四千四百五十八柱を日々変わることなくお祀り続けている大分縣護國神社。このたびの御譲位、そして新天皇陛下の御即位を身近に拝することは、この上ない喜びであります。神社にお鎮まりの大神様に新しい今上陛下御即位三十年奉祝と、我が国の益々の弥栄を祈念する日々のご奉仕の責務を改めて感じたこのたびの春季例大祭でありました。

名残の桜が色を変えつつあったご社頭の左近の桜。この日まで桜花があったのも数年に一度の稀なことです。きっとお鎮まりの英霊たちが平成への名残を惜しみ、そして新たな御代になる令和を嘉してくださった景色でありました。それは「大祭の日には日本の国花である桜の花」を留めおこうと本殿奥深くからお力を放ってくださったに違いありません。

私たちには見えない神様のお力ですが、そのありがたい御稜威はこのようにして何ごとかとして私たちの目の前にあらわしてくださいます。改めて日々の暮らしのなかで、神様には「報告と感謝」の心がけが何より必要なことだと感じた大祭の桜でした。

御代替りまで三週間を残した平成三十一年四月九日の今年の春季例大祭。心配されていた雨の予報から一転、好天に恵まれたお祭りになりました。大分県神社庁副庁長橋本敬様を献幣使としてお迎えし、また各界からのご来賓をはじめ、県下各地より大勢のご遺族崇敬者の皆様にご参列いただきました。

ご高齢の方に交じって若い方のご参列も見られるようになりました。非常に真摯な姿であります。御霊たちの御遺志への理解と共感、不戦の誓い、そして皇室への尊崇の念。古事記・日本書紀の神代より日本人ならではの麗しく尊い思いがさらに花開き始めたのではないでしょうか。

奉納神賑行事

■奉納演武
日本戸山流居合道連盟

■献吟
淡窓伝光霊流大分詩道会

■茶菓奉納
御菓子司菊家

■献茶
御茶舗若竹園

■春季例大祭特別協賛（敬称略、順不同）
日本製鉄㈱大分製鉄所、㈱大分銀行、昭和電工㈱大分事務所、㈱テレビ大分、㈱アステック入江大分支店、岩尾㈱、梅林建設㈱、大分県自動車販売店協会、大分商工会議所、大分製紙㈱、㈱角山商店、㈱佐伯建設、山九㈱大分支店、NSスチレンモノマー㈱大分製造所、日鉄住金テックスエンジ㈱大分支店、鶴崎海陸運輸㈱、㈱トキハインダストリー、日鉄住金物流大分㈱、濱田重工㈱大分支店、山忠商店㈱、吉川工業㈱大分支店、㈱大鐵、㈱まるひで、㈱ミカサ、㈱大高組、㈱ティー・シージャパン、㈲田北工務店、佐藤土木㈱、㈱ゴリラ、㈲まるみや、㈲工藤印刷所、パシフィックセキュリティ㈱、大分バス㈱、㈱若竹園、㈱菊家、㈱トラスト、大分県農業協同組合城東支店、㈲但馬屋老舗、㈱イーエムアイ

御英霊のご遺志を継承するために

三月三日 第二十八回 ぶんご梅まつり

泣き笑い相撲大会とご社頭の賑わい

およそ百名五十組の東西の赤ちゃん。皆さんお元気にすくすくと成長されて我が子我が孫、よそのお子さんよそのお孫さんに関係なくお集まりの皆さん全員が幸せな気持ちになれた恒例の春のお祭りでした。

笑ってくれる赤ちゃん、一触即発、導火線に火が点いたようにすぐに泣いてしまう赤ちゃん。反してまったく動じない赤ちゃん同士の取組もありました。すでに個性が光り、その天与のものが、どうかこれからの一生において素敵に、そして大輪の花として咲き誇っていただきたいと願わずにはいられませんでした。一年後の泣き笑い相撲にはさっそく「令和の赤ちゃん」も参戦し、幼くして世代の違いの取組も楽しめそうです。

外はあいにくの春雨でしたが、きれいな装束を身にまとった上戸次子ども神楽クラブの皆さんによる奉納神楽舞や、おおいた太鼓倶楽部の子どもさんたちの見事なバチさばきの太鼓の奉奏。そして護國神社名物の梅の種飛ばし大会などがご社頭を彩り、降る雨の重さに乗っているかのように時折ほのかに漂う梅の花の香りに、春一番の福である「くだされもの」を神様からいただいたような幸せな終日になりました。

梅の種飛ばし大会優勝者

■子どもの部

男子一位／大分合同新聞社賞
首藤蕨君
【記録】五メートル〇〇センチ

女子一位／TOSテレビ大分賞
貝沼沙耶香さん
【記録】三メートル七九センチ

■大人の部

男性一位
本田祥太さん
【記録】一〇メートル四八センチ

女性一位
佐久間美幸さん
【記録】五メートル二八センチ

祭典行事報告

護國神社の植物／八重桜

祭典行事報告

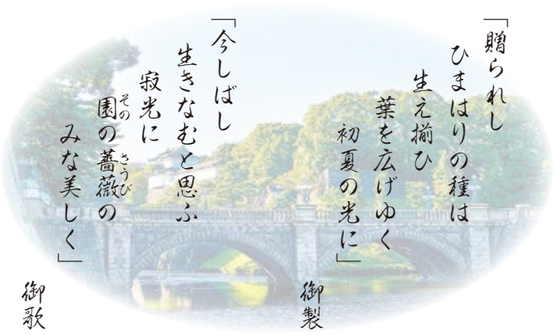
神社庁主催祭式研修会
三月十九・二十日

祭式とは神職が祭典を行う上で最も基礎となる作法や所作のことです。よってこれを疎かにすると祭典の厳粛な雰囲気が壊れてしまいます。今回は日本の文化と伝統に根ざす基礎的な作法の復習から始まり、とかくその作法の解釈が多岐にわたる神葬祭（神道形式でのお葬式）を研修しました。神社庁祭式講師を務める当神社八坂宮司の指導のもと、県下三十名の神職が二日間にわたり熱心に研鑽を深めました。

大分県自衛隊遺族会慰霊祭
四月二十一日

神苑の八重の桜が見事に咲き誇るなか大分県自衛隊遺族会藤元圭介会長、大分県隊友会豊島克治会長、自衛隊大分地方協力本部井村昭利本部長をはじめ多数のご遺族ご参列のもと、殉職された隊員の慰霊祭が執り行われました。大東亜戦争終結後、新しい日本を守らんとされて命を落とされた御霊は私たちの国、故郷の防人であります。日本の平和があるのもその尊いお命の礎あればこそです。

御譲位
四月三十日



「贈られし
ひまはりの種は
生え揃ひ
葉を広げゆく
初夏の光に」
御製

「今しばし
生きなむと思ふ
寂光に
園の薔薇（そうび）の
みな美しく」
御歌

今年の歌会始で両陛下が詠まれたお歌。上皇陛下になられた天皇陛下の国民に寄せられた不変の大御心と、上皇后陛下になられた皇后陛下のお勤めへの変わらぬお気持ちを思い致し、日本国民として両陛下の海よりも深く山よりもなお高いお心に誇りと感謝。そして両陛下のご長寿を祈念申し上げました。

御即位
五月一日

令和は英訳でビューティフルハーモニー。先帝陛下ご健在のうちに新天皇陛下ご即位という誠におめでたいこの日。宮殿松の間において三種の神器を新天皇陛下に奉る剣璽等承継の儀などご即位の行事が執り行われました。当社においても神職一同本殿にて御即位のお祝いと皇室の弥栄をお祈りするお祭りを斎行しました。英訳のように美しく奏でる、まるで雅楽の調べのように麗しく平和な日本でありますようにと祈念するこの日のご奉仕になりました。